

夏休み防災未来教室（人と防災未来センター） 「六甲山の災害展 2016」の開催

農政環境部農林水産局治山課・神戸県民センター六甲治山事務所

1. はじめに

近年の局地化・激甚化する集中豪雨等により、全国各地で大規模災害が発生しており、今年もユース等では連日のように報道されています。

大都市に隣接する六甲山系は、地形が急峻で、もろく崩れやすい土質であることから、地震や豪雨等がひとたび発生すれば大規模災害に発展する確率が高まります。このため、昭和13年の阪神大水害、昭和36年及び42年の豪雨による大規模土砂災害が発生しています。また、忘れてならないのは、平成7年の阪神・淡路大震災における地震災害です。

このように、幾度となく発生している六甲山系の災害の歴史を学習し、また、実験装置等による体験を通じ、山地災害に関する知識や防災意識の向上を目的に「人と防災未来センター」を会場として、夏休み期間中の8月16日から28日まで「六甲山の災害展」を開催しました。



展示会場の様子

2. 防災意識の向上

阪神・淡路大震災から既に21年が経過し、防災に対する意識も時間と共に薄れていきます。このような中、もう一度、防災意識を見直す事が重要な課題となってきました。

いざという時は、自分の命は自分で守るという「自助」の意識を持ち、事前に危険な場所を把握しておき、安全な場所へ避難することが防災の第一歩となります。会場では、「CGハザードマップ」を来場者の方に操作してもらい、自宅周辺の危険箇所や避難場所を調べたり、避難判断に役立つリアルタイムな情報を閲覧操作してもらいました。



来場者によるCGハザードマップ操作体験

3. 実験装置での体験

会場では、土石流の仕組みが3D映像で見られる「3D立体映像装置びっくりくん」と、土石流を再現し被害状況と治山ダムの整備効果を体感できる「土石流実験装置」による実演を行いました。

また、今年新たに、県砂防課による「地すべり模型実験装置」と「がけ崩れ模型実験装置」の実演や、RR併用工法研究会の「斜面安定工法実験装置」による実演も行われ、土石流や地すべり災害等における発生のメカニズムを知ることができたと好評でした。



がけ崩れ模型実験装置の実演



土石流実験装置の実演



斜面安定工法実験装置の実演



3D立体映像装置の実演

4. おわりに

来場者へのアンケート結果では、来場した約60%の方から「防災意識が向上した」との回答がありました。また、「避難経路を再確認する」、「周辺の危険箇所を確認する」等の感想が寄せられ、開催目的である「防災意識の向上」は果たしているかと感じました。今後は、六甲山を護る関係機関等が一体となり、防災、減災等について県民の皆さまが理解し避難行動できるよう普及啓発により一層取り組んでいきたいと考えています。